

「枢機卿」

ジェイムズ・シャーリー 著
千 葉 孝 夫 訳

五幕一場

貴族二名、登場。

貴族一 コラムボが亡くなった故、国王様は酷く苦惱しておいでだな。

貴族二 枢機卿は、その甥の件で、最初茫然自失していただろう、と

私は思ったのだ。そのニュースのお蔭で、斃された他の人々のことは、少しも人々の噂に上らなくなっているからね。

貴族一

我々は、友人味

方同士だな。(それ故、内緒話が出るね。)

私は思うな。ヘルナンドーが、その件に何か関心(利害関係)があつて、

彼等が一体如何な風に傷を負ったものか、知っていたのではないか、とね。

貴族二 彼の逃走が、はっきりとそれを裏付けているが、その彼を捉えるべく、枢機卿がその網を張り廻らしたのだな。

貴族一 彼は、仇敵の手中に己が身を任せて、始めて、のんびり出来る程、

気弱ではないのだよ。

貴族二 それ等は、何れも、私の心を打つことはないのだ、

酷く虐げられた女性である、あの公爵夫人が、

狂乱の態になって、コラムボの目の前で、

殺されてしまった程にはね。

10

貴族一

しかし、あの枢機卿が、

彼女の後见人（守護天使）になるということは、私から見れ

ば、その驚異を凌ぐものだな。

貴族二

それで、それを国王様は気に入られ、彼女は、自分に

残された、

あの僅かばかりの理性を働かせて、彼に対して、とても優し

15

く、
物柔かになれるのだね。

貴族一

彼女は、子供返りをしたのだよ。一種

の狂気が、

彼女の脳味噌と血液とを激しく沸き返らせていた筈なのだが、

その病に罹った俣、彼女は、何か大したことを達成していた

かも知れんな。

貴族二

（彼女は、）効果的なことをやったものだな。

貴族一

あの枢機卿は、巧妙狡猾なので、如何程

その顔に微笑みを泛べていても、ヘルナンドーが、彼女から

熱情を受取っていたのだ、と彼は思っており、それに罰を下

してやる時機を窺っているのだな。

貴族二

だが、可哀想なセリンダは、自尊心から、

何という他人の不人気と歓楽の対象になってしまったことだ

ろうか、

何しろ、コラムボは、自分の（意の俣になる）従僕なのだ、

と彼女は信じ込んでいたものだからね。

彼が亡くなってこの方、彼女は、うんと首を垂れるように

なったし、それに、彼女は、

宮廷で、殆んど嘲弄の的にさえなっているのだよ。

25

枢機卿、アントネツリ、及び、従僕、登場。

貴族一

もう庭園に入って来たぞー

枢機卿が、

枢機卿

立去るがいい。（貴族達、退場。ア

ントネツリ、及び、従僕、脇へ寄る）

公爵夫人が発狂した故、（沁々と苦惱することはあるまいか

ら）今や、私が、

本気で復讐するだけの値打はなくなったのが、私をがつくり

させることだな。

30

彼女は、私の憤怒を味わえなくなってしまうた訳だが、

それは、人に顧みられることなく、森の中で燃え尽きてしま

う

雷や、無感覚な樹々に狙いをつけた稲妻宛らに、

空しくも墮ちてしまい、彼女を傷つけはせぬに違いないのだ、

彼女の

罪に相応しいような、酷い苦悩を味わわせる程にはね。致命的な一撃になろう。

35

自分が一体何の罪科で処罰されるのか、彼女が知りもせぬ俛、彼女が別れを告げる際に、

彼女を脅かし、彼女の心に汗を吹き出させる程迄も、彼女にぐいぐいと死を手繰り寄せさすことはね。それは、換

言すれば、温和穩健な処罰でもあり、

彼女は、純真無垢なお人好しとして、あの世へと、送り込まれることになるのだ。

コラムボの死は、償われぬ俛だろうし、

40

私は、両刃の剣どころか、「両刃の羽根」で、彼女を傷つけるだけ、ということになろう。

私は、それを凌ぐ程の、どれらいことをやってのけなければならぬ、ありとあらゆる好機に、私は恵まれているのだからな。

らな。

彼女は、国王の手で、今や私に委託されているのだが、彼女

は、

誠実貞節と、忍耐の権化とも言うべき存在なので、彼女を殺

したりしたら、私にはマイナスになるだろうから、

多分彼女を飲ばせ、彼女にとって、都合のいいことをするよ

うになるだろうな。

45

しかし、そんなことがあつてはならぬ。

セリンダ、羊皮紙の文書を携えて、登場。

アント これは、今迄コラムボの愛人(恋人)だった、と他人に考えて欲しい、と

思っている女性ではないか？ 奥様、閣下は、只今独りでおいでになり、

(他人に) 邪魔されたくはない、と思っておいでなのです。あなたの方は、お腹立ちになるかも知れませんが。

セリン 私達がお別れする前、あの方を、又もや、お悦ばせるのに、

50

閣下は、一体何をお賭けになりますの？

アント 私は、このダイヤモンドを賭けますぞ、奥様、口づけと引換えにね。

して、賭けられたその品物の保管は、貴女にお任せしますぞ。

(彼女にダイヤモンドを渡す)

セリン

え

え、宜しいですわ。(彼女、枢機卿に近づく)

アント (傍白) 私は、今迄長い間、あの女性に情欲を抱いてきたのだが、

貴族達が、彼女をちやほやすするあまりに、彼女を、えらく尊

大傲慢にさせているのだが—この宝石は、

55

彼女を、もつと愛想のいい女に変えられるかも知れんな。

枢機卿 こんな風に話の腰を折ってくれるようじゃ、あんたも、

行儀作法をまともに弁えてはおらぬ、という感じがするな。

セリン けれど、必要に迫られた、己むを得ない場合にはです
ね、狎下、

大胆不敵さも赦して頂けるでしょうし、私の意図が、
貴方にも、お分りになったなら、この私も、それ程不躰
無作法ではないのだ、とお分りになりましょう。

枢機卿 肯綮に当る

ことを言われたな。

セリン 狎下の甥御様は、お亡くなりになる前、この私にお

目をかけて下さり、

いとも見事にお引立て下さいましたので、私は、

あの方の一番近い血族でいらっしやる貴方ご自身に、

あの方への私の負債として、残っているものを差出そう、と

て参りました。

狎下に詳細な状況をお知らせして、足留めをおさせる為で

はございませんわ。

その証書は、もしもお受取り頂けますならば、貴方は、馬鹿

にはならない程、大した

私の資産の後継ぎになれますわ。―(彼、証書を読む)

(傍白) この方法だけが、

(貴族達やアントネツリみたいな) 口さがない連中を黙らせ
るようにと、

残されているのだわ。あの連中は、コラムボが亡くなってこ

の方、
私の自尊心と、愚かしきとに、敢て無礼無作法な批判を加え

ているのだわ。

枢機卿の偉さと、私が、自分の命並みに、今尚享受している、
この贈物とは、(その条件を超えれば、一王国と雖も、詰ら
ないものになってしまふのだけれど)

口汚い(風刺)詩を作ったり、自分達が注目した、

世間的に認められた(道徳の)道筋から逸脱しているという

評判の一つ一つに悪罵を浴びせて、

生きている人々の軽率な悪意を抑制することでしょう。

枢機卿 奥様、

気前のいいその贈物は、否応なしに、感謝の念と、貴女に

お仕えしなければ、という気持とを、私に起させましょう。

セリン 私の方が、狎下の召使いですわよ。

枢機卿 アントネツリ――

(囁く)

して、この立派な女性が、私を訪ねて来たなら、

この女性をお待たせしないでくれ。

セリン (アントネツリへ) 如何お考えなの、お節介屋さん?

狎下は、

悦んでおいでだ、と貴方もお考えでしょう? 私は、この俵、

貴方の

宝石を貰っておいでもいい、とは思いますが、私が、貴方に

口づけしてあげてもいい、ということは一度もなかったわ。

アント 様— 奥

セリン

もしも、貴方が、敢て話し続けていられるものなら、

そうするがいいわ。私が、ずっと貴方の相手をしている訳

にはいけないことは、貴方もご存じでしょう。

だから、今回は、これで失礼しますわ。(退場)

枢機卿 (傍白) あれは、もう既に私の頭の中にあつて、みる

みる

形を整えてくるな。立派で素晴らしく、愉しい復讐策がな!

彼女は、今や、私の鉤爪に掴まれておる。甥のコラムボが殺

されたことに

報いてやるのに、唯、手緩い呪文(念力)か、力づくで、

彼女を殺してやるだけでは、余りにも安っぽ過ぎるな。

いの一番に、彼女が大事にしている純潔を強奪してやろう。

彼女に一服盛ってやるのは、ずっと後になってからでいいだ

ろう。

すれば、彼女は、我と我が身を亡したものと、と世人には考え

られよう。

私が(自分で)やるべきことを計画する心算なので、今宵、

万事晝がついているかも知れんな。我が甥が殺害された件で、

彼女の手先を務めた、

あの大佐(17)と言えば、彼が、彼女と協議中、

その話を邪魔してやったのだが、私は、これから、

手を伸ばして彼を捉え、彼の宿命を左右してやれよう。

我々は、繁栄して、豪華な暮らしを送っている時にこそ、己が

良心を餓死させてしまふのだな。(一同、退場)

五幕二場

アントニオ、及び、プラセンティア、登場。

アント プラセンティア、我が奥様の召使い達の中で、

我々が、二人だけ残ったのだな。我々は、奥様に対しても、

我々お互いの間でも、誠実を尽し、祈りを捧げている時には、

忘れることなく、あの枢機卿を呪ってやるようにしよう。

プラセ あの素敵な奥様がお気の毒ですわ。

アント 私も、奥様がお気の毒だな。しかし、些か腹を立てて

もいるのだ。

彼女が正気を喪うのなら、もっと別の機会を選んでくれても

よかったことだろうに。

プラセ ああ、この私が男だったら、よかったのに!

アント あんたなら、一体如何するだろうかな、プラセンティ

ア?

ブラセ 私は、奥様の復讐をして差上げたいものですわ。

アント あなたは、女性としての方が、より巧くやれるだろう。

何しろ、あなたは、

(男性相手に) 性的交渉が行えるが、それは、(復讐と違って) 実を結ぶかも知れぬし、その結実は、それ以後、我がものとして、

あなたが手許に取って置けるのだからね。

ブラセ

貴方は、相も変らず

(悪) 知恵を働かせては、

露骨で無遠慮なことを仰有って、悦に入っているのね。

アント

今は酷

い時代だからな、プラセンティア、

何かの楽しみを(ちよっぴり) 味わっても、別に罰は当るま

いよ。本当を言えば、私は、

自分の人生にうんざりしてしまっただので、この世におさらばするに先立って、

景気よく、パッと楽しみを味わってみたいものだな。

ブラセ 貴方は、顔を赧らめもしないで、そんな淫らな(気が

狂ったような) ことを仰有れるの？

アント 我が奥様を見習って、少しばかり乱れ狂うとしても、

まともな

行儀作法と言えぬことはないだろうがな。だが、私は、言いたいことは、もう言ってしまったのだ。一体誰が、

今、奥様と一緒におられるのかな？

ブラセ

ヴァレリア夫人ですわ。

アント セリングではないのかい？

世の中には、私の性に

合った女性がいるのだが、

それは、血と肉とから出来ている、美しい書物で、立派に装幀され、綺麗な活字で印刷されてもいるのだ。ああ、

(彼女というその本の) 正誤表も全て含めて、私のものだった

たらしいのに。

ブラセ

その女性には、

立派な評判が立てられている訳ではないのでしょうかね。

アント

彼女の

(立派な) 評判だって？ そんなものは何もないよ。

ちよっぴり汚点がついているだけだが、(彼女) 彼女の富を

動かせば、又ぞろ、

血色が取戻せるし、元通りの、生き生きとした名譽面目(淑

徳貞節)をば、彼女の顔に

甦らせられよう。もしも、彼女が、我がものであり、私が、

彼女の財布を

手に入れたとしたなら、私は、彼女を律儀貞淑にしてやる方

法を心得ているのだ。

試金石でこすったり、分析器にかけたり、最後に精錬して、

不純物を含む金属ならぬ、金か銀かに(律儀貞淑に) ね。

ブラセ 一体如何な風にするものか、どうか、仰有って？

アント ソりゃ、先ず第一に、私は、彼女と結婚するのだ。そ

れが、是非共やらなければならぬ、重要なことなのだ。

それから、私は、「削除変更項目リスト」⁽⁸⁰⁾を付けて、彼女(という本)を印刷(彼女に押印)してやる。

35

それは、宮廷で、彼女に異論が出る事項(彼女の不品行)について述べられた、(それを削除する旨の)リストだが、

ちゃんと出版権が付いた、(彼女という)本が印刷され(妊娠して)、読まれるということになったなら、

一体誰が、敢て彼女を売春婦と呼べるものだろうか？

ブラセ もしも、貴方がそんなお話ばかりなさっていらつしやるのなら、私は失礼しますわ。

アント 私の話は、もう終わったよ。

ブラセンチア、あなたは、もう一度公式訪問を終えたら、

40

もっと愛想のいい仲間になっているかも知れんな。それで、

さあ、私に教えてくれ、

あなたは、この家の奥様が取り憑かれているような、

他人の言いなりになる、(無抵抗の)狂気があるということ

今迄聞いたことがあるかな？ 彼女は、今迄に僅か二度、

荒れ狂ったことがあるだけなのだ。して、彼女が枢機卿を

ぎよつと怯えさせるか、

さもなくば、夕食の席上、もしも、彼女が、彼に一服盛った

だけだとしたなら、

45

それは、私が、まあ何とか我慢出来る程度の狂乱逆上なのだ。

彼女は、愛する自分の後見人、と彼を呼んでいるのだから
な—

変装したヘルナンドー、手紙を携えて、登場。

ブラセ あれは一体誰かしら？

ヘルナ 奥様の秘書ですぞ！ 貴女、

これは、書状なのですが、公爵夫人のお手に口づけすると
同じ位、たつぷりと、幸せが、この書状に宿っていればいい

のですがな。

50

アント 何方からの書状ですか？

ヘルナ 貴方にお訊ねになるのは、

貴方に

関わりがあることではないし、それにお答えするのも、私の

関知するところではないのです。奥様がこれを読まれる時、

理解力に欠けるといふことはありますまい。

アント ああ、

こう申しては失礼ですが、貴方は考え違いをしておられます

ぞ、

奥様は、決して、もうあれ以上、理解力に欠けることはな

かった筈ですからな。

ヘルナ 一体如何して？

55

アント 貴方は、お聞きになったことはありませんか？ あ

の方の脳天は砕けてしまい、

その破片が幾つも取り出された、つまり、気が違ってしまったわ
れたのですぞ。

ヘルナ あの方が乱心された、という、心鬱ぐ評判は、

どうも、本当過ぎる程、本当のようすな。

ブラセ

ご免蒙りまして、60

もしも暫くの間お待ち頂けますならば、この書状をお渡しし
て参りますわ。

ヘルナ どうか、そうして下さい。(プラセンティア、退場)

一体何時から、あの方は、あんな風に、精神錯乱を来たされ
たのですかな？

アント 枢機卿が、此処を管理すべく、やって来られる以前か
らですな。

枢機卿は、その理由から、国王様の手で、彼女の後見人に
任命されたのです。我々は、今や、彼の指揮下にあるのです
がな。 65

ヘルナ 虎の餌食として捧げられた、仔羊なのだ！ 病魔が、

早速その心の臓迄も貪り尽してしまうがいい！

アント

失礼ですが、

私は、その声が好きですし、それを存じてもいますぞ、一寸
はね。

貴方は―お腹立ちございませぬようにね、立派な貴方、 70

私は、苦もなく、又ぞろ、何も知らぬ者に戻って、

貴方が別のお人なのだ、と考えることが出来るのですが、も
しも

貴方が、(世の人々がそう呼んでいる)あの勇猛な紳士だっ
たなら―

ヘルナ 一体誰のことを言っているのかな？ 何だつて？

アント 殺害を行った(ところの)―貴方は、他ならぬその紳

士に、進んでなつてはくれまい、と

もしも、私が考えたとしたなら、その人の名を言いたくはあ
りませぬな。 75

ヘルナ この私は、裏切られてしまったのかな？

アント

悪魔と雖も、

此処では、

貴方を裏切ることはありません。私を殺されるが宜しい、
すれば、私は、
我が死に賭けて、貴方は、高潔な大佐殿なのだ、と断言させ
て頂きますぞ。

我々は、全員挙つて、あの将軍が亡くなった廉で、切つても

切れぬ関係にあるのです。

勇猛なヘルナンドー様！ 貴方が此処に来ておられる、と、

もしも、我が奥様が気付かれたなら、又もや、

巧いこと正気を取戻されましようぞ。

ですが、余りにも大き過ぎる声で話をなさらないで下さい、

この邸内にいる

我々が、全員揃って律儀誠実とは限らないのです。中には、枢機卿の手先を務める連中もおりますからな。

ヘルナ あんたは、あんたの女主人の奥様に、忠勤を励んでくれたな。今はもう、夜に入っているのが、

私は嬉しいぞーだが、あの聖職者が、公爵夫人をば、一体如

何な風に取扱っているものか、

私に教えてくれ。

アントネツリ、登場。

アントニ 彼は、その舌と顔とに、天使の相を宿してはいるの

だが、私は、

彼の心の奥底を疑っているのだ。この男は、枢機卿の子分の

一人だな。

シニョール・アントネツリ！

アントネ やあ、律儀者のアントニオ！

90

アントニ そうだとも、そうだともー我が友人味方よー枢機卿

猊下は何処におられるのかな？

ヘルナ (傍白) それには、如何しても答え

られぬだろうな。

アントネ 猊下は、此処で、公爵夫人と、夕食をご一緒される

お心算なのです。

アントニ そうですかな？

アントネ 我々(召使いの仲間)は、ちゃんと酔える、愉しい酒の瓶を、私の部屋に用意しておきますからな。

その方をお連れ下さい。我々は、(宴会をして)うんと愉快に過せましょう。

ヘルナ (傍白) 私は、あんた達の歡樂を邪魔することになる

かも知れんぞ。

アントネ 失礼します、貴方ー(退場)

アントニ 親愛なるアントネツリー酷い(口の巧い)梅毒に感

染して、くたばってしまうがいい！

これは、遠回しの、宮廷風修辭なのだ。

プラセンティア、登場。

プラセ 貴方は、この方をご存じなの？

アント いや、私は知らないよ。

プラセ 奥様は、つい先刻、ヴァレリア様とお別れになり、

100

あのお方を、ご自分の寝室にお連れするよう、私にお言いつ

けになったのです。

アント あおの紳士は、律儀誠実そうな顔付をしているな。

プラセ お言葉は、奥様の

幾分落着いて、嬉しそうに、そのお口から出てきたものなの

です。

(ヘルナンダーに) 奥様は、貴方にお会いしたい、と仰有つておいでですわ。

ヘルナ

奥様の許へ伺候致しますぞ。(プラセンチ

アと共に、退場)

アント ああ、あの武人が、枢機卿をば、岬の突端に

追い詰めていたら、よかつたのに！ (すれば) 何と勢よく

あの聖職者は、跳び降りることだろうか！ 彼が、断崖から

転落し、

魚達に胆を潰させるような、派手な音をたてて、

塩水の中に跳び込むところを見るのは、

世にも珍しい見物みものということになるだろうて。して、もしも

彼が、

魚網の中に落込んだ(84)なら、愚かな漁夫(85)達は、如何程の驚きを

覚えることだろう、いとも都合よく茹でられた、

育ち過ぎの(不恰好な)海老を、手繰り寄せられるとなると

な！ 彼は、私の立派な願望を叶えてくれよう。

あの大佐がやって来たのは、幸運なのかも知れぬ。私は、

間違はなく、誰にも、彼等の邪魔をさせぬようにせねばなら

んな。

セリンダ、登場。

セリン 公爵夫人の奥様にお目にかかれますかしら？

アント いいえ、駄目ですな、奥様、

うちの奥様は、今お休みになつていらつしやる、とその侍女

が申しておりますからな。

セリン 唯お訪ねするだけが、私の用事なので、お待ち

していますわ。

アント そうなさる訳にはいきませぬ、貴女が同席して下さ

るのは、大歓迎なのですけれどね。

セリン 貴方は金持におなりですわね、秘書の貴方。

アント この私が、ですか、奥様？ ああ、とんでもない！

セリン 近々貴方が、何か新しく入手なさる筈だ、とお聞きし

ましたわ。

アント 私が何か新しく手に入れるですと？

セリン 金なにかしが欲しい、と、もしも、貴方が思つておいででしたなら—

アント もしも、貴女の快いお引立を、私が受けられるのでし

たらね、奥様？

セリン 貴方は、私も、私の財産をも、ご自由になさればいい

のですわ。

アント それは、一体如何いことですか？

セリン

今迄、私は、貴

115

110

105

120

125

方（のお人柄）を観察させて頂きましたが、貴方が真面目（沈着）で、

思慮分別に富んだお方だ、と分りました―それで、貴方になつて頂きたい、と―

アント 私に、じゃないでしょうか？

セリン（傍白）或る幼児の父親にね。彼は、世間的に

信用を博している人なのです。私は、別に、秘書をしている人と

結婚したのはいいけれど、結局は、捨てられてしまった、始

めての女性という訳ではないのですわ。

アント 貴女のお供をさせて頂けますかな？

セリン 何処へ行こう、つ

て言うの？

アント 何処へなりと、お好きな所へね。

セリン それじゃ、私の思いつきで、貴方をお連れしようかし

ら―

アント 貴女のお言いつけに従わせて頂ければ、私にとっては

名誉ということになりますよ。私は、

情熱的になつており、こんな気分なら、如何なことも

やつてのけられますぞ。

セリン ええ、いいわ。貴方の男らしさを試してみましよう。

アント そ

れこそ私の幸せでして、

それにもまして嬉しいことはありませんな。

セリン（傍白）これで、私にとっては、有利な売買の取り決
めが出来たわ。

アント これで、私も、ずっと運が向いてきましたな。

（二人、退場）

五幕三場

ヘルナンドー、及び、公爵夫人、登場。

ヘルナ 奥様、お哭きにならないで下さい。

公爵夫 貴方を心から歓迎し

ますわ。

哭くのは、もう止めます。もうこれ以上、泪は一滴も流しま

せんわ、

アルヴァレス様にお目にかかる迄はね。そうなつたら、嬉し

さのあまり、私は、哭き出してしまふでしょうけれどね。

彼は、素敵な若い紳士でしたし、美しい声で唄を歌われたも

のですわ。

それで、私達が結婚するつい前の晩に、彼が歌うのを

もしも貴方がお聞きになつたとしたなら、貴方は断言なさ

たことでしょう、彼は、白鳥(8)なのであって、自分自身の碑文を歌っていたのだ、とね。

だけど、あの枢機卿のことを話し合いましようよ。

ヘルナ

彼が死ねば、

その代りに、美しの貴女の正気が請け戻せるものならば、彼を生かしておいて、

貴女に正気を喪わせてやったからとて、彼に、むぎむぎ勝ち

誇らせはしませんぞ。私の男らしさなぞ、犬にでも喰われ

てしまえ、だ、

私は、ヘナヘナと意気地がなくなってきましたからな。

公爵夫

どうか、

教えて下さいー

何しろ、私が、正気を喪ってしまった、と世間の人々は言っ

ているのだけれど、

私には、物の道理が理解出来るのですからな。だけど、私の

頭は、全く正気の俣(9)なのだし、

あの枢機卿が、亡くなったなら、その正気が取戻せましよう、

彼は、その甥が殺されてこの方、甥から来た書状を

持っていましたからね。

ヘルナ

一体何処から来たものでしょうかな？

公爵夫

彼が、今、何処にいるものか、分らないけれど、何処

か庭園内にある四阿(10)で、彼は、花環を作っており、

その一つを、私に贈ってくれる心算なのだけれど、私は、そ

れを受取りはしませんわ、

私が生きている間、有難いことに、私は、花が不足すること

はありませんからね。

ヘルナ

ですが、貴女は、ご自分の後見人がお好きなのですか？

公爵夫

ええ。だけど、私があの人と結婚することは決してあ

りません。私は、既に他の人と

約束済みなのですからね。

ヘルナ

一体誰とです、奥様？

公爵夫

貴方が、そん

なことを

私にお訊ねになるなんて、お顔が赧(11)くなりはしませんの？

貴方は、私の夫になられる、と

決っている方ではありませんの？ それが何故なのか、私は

ちゃんと知っていますわ。だけど、それは秘密ですわね。

本当に、もしも、貴方が、私の言葉を信じて下さるなら、生

きている男性で、

私がお心から愛している方は、貴方の他に、一人もおりません

わ。あの枢機卿は、

それに気付かれることは決しないでしょだけれど、私達を、

二人共、殺してしまうお心算なのです。それなのに、

彼は、私をお心から愛している、と言って、又もや、私を

幸せにしてあげよう、と約束してくれたのだけれど、どう

も、

彼は、何時の日か、私に一服盛ってくれそうですわ。

ヘルナ 彼の先手を打つてすな、奥様、彼からは、何も受取らぬことですぞ。

公爵夫 それじゃ、それが、私に害を及ぼすだろう、とお考えなの？

ヘルナ それは、貴女のお命を縮めましょう。

公爵夫 私は、唯、死ぬだけに過ぎませんわ、そして、私が、心から愛していた夫に遇えましょう。

その夫に口づけしてしまつたなら、私は、再び（この世へと戻つて来て、貴方が、

天国へ旅立とうとなざつている時、貴方が、彼の許へと携えて行けるように、と

私の髪を編んで、（服喪の）腕環を作りましょう。その銘は、^{補三}私が、今度の冬に哭く時に、流す泪の小さな滴を注いだ、

私自身の名前にしましょう。その泪は、霜がおおると、凍り凝結して、

小粒の真珠のように見えましょう。貴方が、それを屈けてくれますすね？

あの人は、それを大切にして、私の為に、身に付けてくれるようになることは、分っていますわ。

ヘルナ（傍白）もうすっかり狂つてしまわれたな。

公爵夫 私をお赦し下さいいな。

どうか、この

自分が賢明な話し方をしてはいない、と私は承知しているけれど、もしも、貴方も、

私の今の悲嘆という重荷を背負つていらつしやる、としたなら、貴方には、

もつとましな理由が、時には、無くなつてしまふことでしよう。さあ、私は、もう軀具合がよくなりましたわ。

あの枢機卿がやつて来たなら、貴方は、一体如何なさいます？彼には、如何なことがあつても、貴方と顔を合わせてはならないのですわ。

ヘルナ その通りですな。

彼がやつて来る前に、私はお暇しましょう。

公爵夫 行って、いいえ、お待ちに

貴方が行つてしまわれたなら、私には、たった一人の友人味方も残らなくなつてしまうのですわ。

あの人は、夕食を摂るだけで、私と共寝しよう、と居残ることとは、ゆめ、ありますまい。

私は、我が主人の肖像画を、寢室の壁に掛けてあるので、

こんな（暖かい）陽気なのに、一つ床に、三人が一緒に寝るなんて、多過ぎますでしよう。

プラセンティア、登場。

ブラセ 奥様、枢機卿殿下がお見えですわ。

ヘルナ 奴さんは、悪魔とでも、夕食を共にするがいいのです
がな。

公爵夫 私は、敢て此処に留っている訳にはいきませんわ、

あの赤い雄鶏ニ(枢機卿)が、腹を立てるでしようからね。も

う一度此処へ戻って来ますわ。(公爵夫人、及び、プラセン
ティア、退場)

ヘルナ あの悲嘆は、作り話などではないな、私には、今や、

自分の好奇心が、痛ましくも充されたのが分るからな。

ほう！ もしも公爵夫人が、その正気が踏み迷うあまりに、

この私の正体をば、枢機卿に暴露する言葉を口走るようなこ
とがあつたなら、

長い間食物を詰め込まなかつた為に、飢えたその胃袋が、干

涸びてしまった時、

その豹が、己が憤怒を刻みつけ、私の心の琴線を引き千切る

うとするよりも、

己が餌にありつこうと、もつと擽猛に、彼が

跳びかかることはあるまい。何もかも既に宿命で定っている

ことなのだが、

しかし、彼女は、時には筋道が通つた話をしたし、

私を愛している、とも言ったのだ。おや、あの二人は未だ来

ないな。

私は、剣を佩びているし、死神を訪れるべく、

私自身の担保物(抵当)を残して来もしたのだ。

だが、私は、暫し立ち止つて、考えることも出来るのだな、
一体何方の方角が、少しも名誉面目を損うことなく、私を、
其処へと導いてくれるものか、をな？

私が歩み入るうとしてこの部屋は、震え戦っているの

はないかな？

彼女と、この私と、全世界とは、一体如何なつてしまうのだ

ろうか、

今から、僅か一時間のうちにな？ 私には、

日の光がもう一度見られるようになるだろう、とは思われん

な。夜の

翼が、漆黒の枢覆い(の布)宛らに、私を蔽い匿しているし、

星屑達も、拳つて、心からの哀悼者になっている。だが、私

は、

唯一人で、冷たくて、物言わぬ墓石と向い合っているだけで

はいけないのだ、

この私はな。もしも、あんたに出来るものなら、アルヴァレ

スよ、その

(墓の扉という)漆黒のカーテンを引き開けて、たとえ、世

の正義が、

役には立たなくとも、あんたの亡骸の名誉を回復し、世人の

60

55

75

70

65

渴望を、

流血で充して差上げるその者（この私）をば、篤と眺められるがよい。あんたが愛していた公爵夫人は、もう既に亡霊同然になってしまわれ、その軀を、

役にも立たぬ上衣宛らに、着用されているのだが、それは、形が崩れて、くしゃく／＼になってしまっているのだからな。おや！

ブラセンチア、登場。

ブラセ 私のことを、不審がられるには及びませんわ。奥様は、ご自分が、貴方のお傍から離れていた時間が、長過ぎる、と貴方がお考えにはならぬように、と願われ、私の耳に、小声で囁いて、

貴方にお伝えするように、とお言いつけになったのです、この前、

奥様が、お酒をお飲みになった時、貴方のご健康を祝する乾盃をして、幸せだった、とね。

ヘルナ して、枢機卿も、それに合わせて、乾盃したのですかな？

ブラセ あの方は、その宴会には招かれませんでしたし、貴方が、今此処においでなのだ、とあの方に知られてもいけないのですからね。

ヘルナ ねえ、彼等は、一体如何なことを話題にしているのですかな？

ブラセ 狎下は、とても如才なく、（リュートの音、奥から聞えてくる）

優しく、奥様に対して振舞っておいでですが、奥様は、心鬱ぐ、

その気分に応じた返事をしておられ、時には、それが、支離滅裂なものになっているのですわ。

ヘルナ 音楽が演奏されていきますな。

ブラセ リュートだけですわー
人々の噂では、狎下が、イタリアでも最高の演奏者を用意されたとかでー

その人が、閣下のご用を承ろう、という訳ですわ。

ヘルナ あの人は、

公爵夫人が、

舞踏蜘蛛クラレンチュラに刺された、とでも思っているのだな。

ブラセ 失礼しますわ。

私は、（奥様の）ご用を勤めなければならぬものですからね。（退場）

ヘルナ 淑やかな女性だなー

歌い手もいるのかな？（唱声、奥から聞えてくる）

唄

ストレ さあ、愛するダフネよ、さあ、行くのではないか。

100

我々は、素晴らしく麗かな日を、愚図々々と、無駄に過しているのだぞ。

お前を呼んでいるこの私は、ストレフォンなのだ。

ダフネ

一体如何し

たい、つて言うの、愛するあんた？

ストレ さあ、私について、天人花の木立へと行くがいい、

其処では、ウエヌスが、お前の髪を飾る、

新しい花冠を用意していてくれよう。

105

ダフネ たとえ、私が樹幹に閉じ込められていようと、

私は、自分の木の樹皮を切り裂いて、あんたについて行くわ。

ストレ 愛する女羊飼いや、急ぐがいい。

時刻は、するくと、余りにも疾く過ぎ行くものだからな。

ダフネ もっと涼しいその木蔭で、キューピッドみたいに

私は、目が見えぬ俵、あなたの目に口づけするわ。

ストレ それでは、私は、彷徨い歩いて、あなたの胸内へと入

り込もう。

それ程温かく、雪宛らに、白い肌に含まれては、道に迷わぬ

者があるうか？

ダフネ 私達は、嗟いさざめいて、この世を後にしましょう。

110

そうしたら、(私達の姿を) 目にする神々でさえも、
あんたと、私とを、羨しく思うでしょうけれど、
如何しても、私達程の歓びは
覚えられないでしょう、神々(同士)で、抱き合ったとして
もね。

115

ヘルナ これ程離れていても、私が、あの曲を聞き分けられる

となると、それは、

教会音楽ではなく、メロデーが淫らで、如何な聖歌も、その

曲に合わせて、

唄われてはおらず、愛だの、口づけだのという、何か不思議

120

な合唱歌なのだ。

あれは、一体何を意味しているのだろうか？ —おや、彼が此

方の方へとやって来るぞ。

私は、欺かれてしまったのだ。彼が、彼女の手を執って、進

んで来るぞ。

私は、もう少しの間、信用して、安心して居る風を装ってい

よう、アラス織の壁掛け宛らに、黙して語らず、

我が剣と、この身とを、此処に匿してな。(彼は、剣を引抜き、

アラス織の壁掛けの後ろに隠れて、見守っている。)

125

枢機卿、公爵夫人、アントネツリ、及び、従者達、登場。

枢機卿 お前達は、次の間に控えていて、何人も、敢て

我々を邪魔することなどないように、留意してくれ。(アン

トネツリ、及び、従僕達、退場) (傍白) 彼女は、如才なくしておるな。

さあ、何か巧みな術策を使って、純真無垢な彼女をば、墮落させてやらなければならぬ。

公爵夫 (傍白) 枢機卿が、上機嫌なのが気に入らないわ。この人は、

一体如何な客人が私の部屋にいるものか、殆んど考えてもないのだから。

枢機卿 さあ、奥様、貴女は、もう安全無事ですぞ。

公爵夫 狎下、それは一体如何な意味ですの？

枢機卿 (彼女を抱擁しながら) 私の両腕に抱きしめられていて、安全無事なのだ、という意味ですがな、愛しい奥様。

公爵夫 私を傷つけないで下さいな。

枢機卿 全世界の財産と引換えにでも、そんなことはしませんぞ。貴女は、

可愛い私の預り人なのですぞ。もしも、貴女にお尽した

い、という、

130

細やかな思い遣りを抱いているのと同じ位、多くの命が、この私にあつたとて、

それ等(の命)を残らず差出すとしても、奥様にほんの一時でも楽しんで頂く為には、

少しも惜しくはない料金なのだ、と考えることでしょうか。貴女が、ニッコリと

微笑んでおられるのを眺めるのは、この上ない幸せなのですぞ。

公爵夫 それを、一体如何な優しさと貴方はお呼びになりますの？

枢機卿 貴女が、それ程たつぷりと愛らしさを保っておられる間は、

それにつける名前に、事欠く筈はありませんや。それは、つまり、愛なのですぞ。

公爵夫 私の「愛らしさ」ですの？ 如何な風にすれば、それが、私に分るものでしょうか、狎下？

枢機卿 こうして、こうすればね。(彼女に口づけする) これは、つまり、あつと言う間に、

我々の気持をば、互いに囁き合う使者、という訳ですからな。

公爵夫 ねえ、貴方は、(私を) 口説きにお出になったの？

枢機卿 左様ですぞ、奥様、

貴女は、私の気持を拒まれる程、酷い女性におなりにはなれ

140

135

ますまい。

公爵夫 何ですって、猥下？

枢機卿 もう一度口づけをね。

公爵夫 そんなことは、

しないで済ますことは出来ませんの、猥下？ (傍白) ああ、
どうも、

ヘルナンドー様は、眠り込んでしまったか、私の許から姿を
消してしまつたみたいだわ。

枢機卿 (傍白) 私は、巫山戯て己が情熱を燃え上らせたのだ
が、私が、心から

憤るあまりに、己が報復の目標にしたものが、
今や、恋という情欲の対象になつてしまつたのだ。

彼女の唇に口づけすると、私はすっかり恍惚となつてしまい、
もしも、彼女が私に抱かれるのを承諾するなら、どうも、

甥のコラムボが殺害されたのを、あっさりと赦してしまいそ
うだな。(彼女に) さあ、奥様、参りましょう。

公爵夫 一体何処へですの、猥下？

枢機卿 何、貴女がお使いの寢台

か、長椅子へと、行くだけですかな。

其処で、もしも貴女が優しくしてくれて、(敢て私を相手に)

愛の業、

性的交渉をしてもいい、という気持ちになつてくれさえしたな
ら、その姿形や、(人に味わわせる) 恍惚感をば、

145

賢明な詩人達が、夢物語の中でだけ、讃め称えた恋の神は、
貴女の寢室をば、永劫に己が宮居とすることでしょうな。

して、そんな澁刺として激しい、新たな悦楽が、

貴女の胸の上を滑り流れるにつれて、貴女は、

何か幸せな変遷に姿を変えられて、ご自分が、一体如何な
未知の世界へ来ているのだろうか、と驚嘆されることでしょ

うな。一体何故、貴女は躊躇っておられるのです？

それに、何故そんな狂乱の態を見せておいでなのですか？

貴女は、ご自分の後見人(の申出)を拒まれるお心算です
かな？

公爵夫 一体如何して、貴方の足先が、そんな風に、二股にな
つたのでしょうか？

枢機卿 そんなに、空想を逞しくしていると、

それは、貴方の幸せに仇なす、謀叛人になつてしまいますぞ。

この私は、貴女の友人味方なんですぞ。その私に、少しは優
しくしてくれなくてはね。

公爵夫 私から手を離して下さい、

さもないと、私は「暴行されている」と大声で叫びますわよ。

枢機卿 屹

度そうしてやろう、と決めた訳ではありませんまい。

公爵夫 (傍白) 私は、ヘルナンドーの影法師に騙されたのだ。

此処には、私の声を聞き届けてくれるのは、天の他には、誰
もいないのだわー助けて、暴行されているのよ！

枢機卿　すると、あんたは、ことの成行きが弁別出来ぬ程、頭

がおかしくなっている訳ではないな。それでは、

私は、別の論法を使わねばならんな。(力づくで彼女を手ごめにしようとするが、ヘルナンドー、跳び出して来る)

ヘルナ　おい、待て、

枢機卿め！(彼を打ち据える)(公爵夫人、退場)

枢機卿　ヘルナンドーだな！　人殺し！　謀叛だ！　助け

てくれ！

ヘルナ　全軍拳って、攻め寄せて来ようとも、あんたを助けら

れはせぬぞ、あんたの血は、

沸沸と滾っているので、私が持参したランセットを用いて、
熱く火照ったあんたの血管を切開して、あんたの熱を冷まし
てあげよう。¹⁷⁵

この世におさらばするあんたの魂をば、苦しめ悩ます為に
言つてやるが、これは、

コラムボの心の臓を刺し貫いた、正にその道具なのだよ。(枢
機卿の胸を刺す)

枢機卿　助け

てくれ！　人殺しだ！

アントネッリ、及び、従僕達、登場。

アント　誰か、鐘を打ち鳴らすがいい、それで、宮廷中の人々

が、目覚めるだろう。

ご主人様が殺されなされた。下手人はヘルナンドーなのだ。

(鐘が打ち鳴らされる)

ヘルナ　お前達を、全員纏めて、押揃ってやろうー(それから
生じた乱闘中に、ヘルナンドー、負傷する)

さあ、これ

で、我々は互角になったな。

公爵夫人は、一体何処においでかな？　私は、彼女に

別れを告げ、それから、お前達全員に、私の呪いを遺贈して
やるぞ。

国王、公爵夫人、ヴァーリア、貴族達、護衛兵達、登場。

国王　一体如何して、こんな血塗れの連中が立ち現われたのか？

ヘルナ　我が剣が見つけた、早業を使って、ですぞー彼は、報

いを受けたことでしょうか。

貴族一(傍白)私もそう思いますぞ　枢機卿陛下を手当させ

るべく、外科医をお呼び下さい。

国王　ヘルナンドー！

公爵夫　正義です、おお、正義の裁きが下ったのですわ、女性
の凌辱者に対してね。

ヘルナ　陛下、手前は、陛下のお役に立ったのですぞ。

国王　人の血を

流す、という役にな。

ヘルナ 人の血を流しはしましたが、罪を犯してはおりませんぞ。

外科医、登場。

枢機卿 (傍白) 我が報復を完璧なものにしようと、今迄、こ

れ程、気を配ってきた挙句の果てに、

女の策略のお蔭で、こうして、この世から押し出される羽目になるとはな。

ヘルナ 私は、公爵夫人をば、凌辱から護って差上げたのだ。

この私自身や、全世界にも、永劫に「お休みなさい！」だな。

(死ぬ)

国王 (枢機卿に) それ程迄も冒瀆的なのかな？

公爵夫

全く本当なので

すわ、アルヴァレス様が血を流した

報復が、今や遂げられたのですからね。私には、自分の知力

が戻って来ているのが分るし、

未だ彷徨^{さまよ}っているどの思慮分別もが、本来の居場所へと帰り

かけていますものね。

枢機卿 陛下、私は、貴方が、思わず、私から眼を背けられるに相応しいようなことを今迄行なってきましたし、

私のこれ迄の人生は、途方もなく邪悪なものでもございまし

たので、

私が流す血は、今や、この王国の病を癒す香膏^{パーム}ともなりますぞ。おお、陛下、

私は、貴方のお耳や、貴方の信頼や、貴方の民衆や、

私自身の神聖なる職務をも、今迄穢^{けが}してきましたので、私の

良心は、

今や鋭い痛みを感じております。おお、貴方の慈悲仁愛を示

され、

ヒンヤリとして快い、そよ風宛^{むか}らのお赦しを賜^{たま}わりまして、

人も棲^{すま}ぬ地方や、カラカラに乾涸^{かわ}びた沙漠中を

彷徨^{さまよ}い歩^あいている、苦悩する哀れな私の魂をば、煽^{あお}いでやつ

て下さい。

(公爵夫人に) ですが、私は破滅することになるので、た

とえ、全世界がこの私を赦してくれようとも、

貴女は未だご存じありませんがな、奥様、貴女の命を狙った

罪に対する、貴女の情深いお取計^{とりか}らいが頂^{たま}けぬ限りはね。

私は、告白しなければなりませんねが、貴女の淑徳貞節を汚そ

うとした、

陰險凶悪な私の意図にもまして、貴女は、もう既に、一服盛

られているのですからな。

国王 一体何者の仕業かな？

枢機卿 私の、ですな。

甥^{せう}のコラムボが殺害されたことに報復してやろう、という訳

195

190

210

205

200

で、私は、

知らぬうちに、徐々に、しかも、確実に回ってきて、結局は、間違いなく死を惹き起す

毒薬をば、貴女が先刻お摂りになった食事に混ぜておいたのですからな。

国王 公爵夫人の具合を診てあげるがいい、予の医師達よ！

枢機卿 お待ち下さい、奥様から、情深いお取扱いを受けるに相応しいことを致しますぞ、尤も、私は、

あの行為を取消すことは出来ないのですけれどね。私の悔悛の証拠として、

もしも、今や死にかけている者が、今わの際に口にする言葉に、

貴女が慈悲仁愛の情を催されて、それを信じて頂けるものならば、象牙張りの、

この小匣ばこをお受取り下さい。その中には、人々が、えらい特効薬と呼んでいる薬をも凌ぐ解毒剤が入っていますからな。

その粉末を、酒に混ぜて服用すれば、いとも珍しい程、素早く心の臓に迄も入り込んで、それを強壯にし、

いとも迅速に体内を回る、毒薬の猛威をも、受け止めようにしてくれますしやう。

私は、それを奥様に進呈するに相応しい者ではありませんが、おお、それを受取られて、清浄潔白な奥様のお命を救って差し上げて頂きたいのですな。

貴族一 不思議なことだ、彼が、予め、効目のある物を、こう

迄抜目なく用意していたとはな。

枢機卿 その薬は、私が毒を盛られて死ぬだろう、という、

私の誕生の際に下された、偽りの予言を盲信して、

不安懸念に苛まれていた私が、私自身の安全無事を確保すべく、

ずっと所持していた物なのですぞ。己が窮余の手段となる筈の

代物を、私が常備していたことを、不審には思わないで頂きたいのですな。

従僕、葡萄酒入りの大杯を持参して、登場。

貴族一 これは、一寸した恩恵の表われだな。

枢機卿 潔白な己が胸の裡を、更に明らかにする証拠として、

先ず、私が、これを飲み、今わの際の声を振り絞って、私の悔悛ぶりをば、確認しますぞ。それは、奥様が生き永らえられる助けにはなるでしょうが、

私の傷を塞ぐ役には立たないのですな。(飲む) おお、急遽奥様をお護りし、

たとえ、この私が、奥様にお赦し頂くだけの値打がなくとも、汚れなき

奥様の魂が、その肉体から絶縁させられませぬよう！（公爵夫人、飲む）

国王

仲々の慈悲仁愛だな。

これは、

奥様、それが巧く成り行きますよう！

ヴァリ

奥様、お驅の具合は如何でしょうか？

公爵夫 それで、死んで貰うことを私が切望していた、その当

のご本人に、私は、

命を助けられなければならないのでしょうか？ 自発的に私

が口にする、次のような自認の言葉をお聞き下さい、

つまり、私は、今宵、我と我が手で、アルヴァレス様の殺害

という

非道を矯正しようとしていたのだ、ということをね。

国王

貴女は、

頭がおかしくなっていて、

報復について考えるなんて無理だ、と、人に思われていたのだがな。

公爵夫 その変装を、私は、無理矢理我が物としていたのです

わ、陛下、人を偽る自分の腕をば、

より自由に揮い、我が身を護る為にもね。ですが、あの

ヘルナンドー様が、私を訪ねて来た時、報復の遂行を

彼に委ねてもいいだろう、と私は思ったのです、

250

何しろ、犯意を抱いたこの私の、蔭からの台詞付け（プロムプティング）など丸つきり必要ない程にも、彼は憤激していたのですからね。

そして、枢機卿の情欲が沸き滾った時、彼自身が血を流した

お蔭で、それは冷やされ、消されてしまったのですわ。

貴族一 枢機卿が、ニヤリと嗤っているぞ。

枢機卿

さあ、今や、私の報

復心が、

あんたと出会わしましたな、すばしい公爵夫人よ。私も

又、

より自由に振舞うべく、今迄変装していたのです。

して、つい先刻私が渡した一服を飲んで、彼女には、もう

毒が回ったに違いありません。

国王

まさか、そんな恐ろしいこと

を！

公爵夫 まあ、何か強心剤を持ってきて！

枢機卿

ああ、如何な予防薬

も、

それに追いつけるような翼を生やしてはいませんな。たとえ、

彼女の心の臓が、

石造りの墓穴の中に閉じ込められていようと、それは、心の臓を捜し当てた

の臓を捜し当てた

救助者の手が、それに届きませぬうちに、それを殺してしま

260

255

うだろう。屹度

あんたも、今やもう、私を唾いものには出来ませぬ。

国王 あんたは、一体如何な風にして、その毒薬を手に入れたのかな？

枢機卿 手前が、それを調査したのです、

彼女の軀を存分に享受しましたなら、（それは、

あの大佐に阻止されてしまいましたがあな、）何か巧みな手練

手管を使って、

彼女にそれを飲ませ、その死によって、私の最後の報復をば、

締め括ってやろう、と決意しましたね。以上で、私の宿命的

な話は、終了ですぞ。

国王 それは、途方もなく邪悪な話なので、殆んど

信じられぬ程だな。

枢機卿 私は、自分が、ずっと長く、生きられはせ

ぬだろう、と分りましたからな。

外科医 貴方の傷は、絶望的なものではありませんでしたぞ。

枢機卿

や、致命的ではなかった、だと？

それは、本当に致命的ではなかったのかな？

外科医

しての、私の技術が、確かなものでしたらね。

枢機卿 それでは、私は、自分が仕掛けた畏に、迂闊千万にも、

自ら掛かってしまったのだな。

貴族二 毒を盛られて死ぬのは、自分の宿命なのだ、と貴方は

仰いましたぞ。

枢機卿 あれは、私への、あんた達の信頼につけ込もうとする、

私が自ら下した予言だったのです。如何な人間の業も、今や

それに抗うことは出来ず、

それが、生命の在り場所（たる心の臓）をノックしているの

が、私には感じられるし、

それは、押し入って来るに違いないのです。貴方の慈悲仁愛

を試そうとして、

私は、自分自身のそれを發揮したい、という衝動を悉く押し

殺してしまっただが、

今や、それは滅多に見つかりませぬ。

もしも貴方が少しばかりお祈りをして、私を手招きされるだ

けでも、

飛翔力が落ちた私の翼は、風に乗るのだ。だが、それも

無駄なことだな、霧が立ちこめてきたのに、彷徨い行く私の

船をば、

無事に導いてくれる者は、誰もいないのだからな。（死ぬ）

貴族一

なりましたぞ！

国王 彼と共に、裏切られた信頼も、洗い漂い消滅してしま

うのだな。

貴族二 これは、不思議な程、冒瀆的な事件でしたな。

270

265

280

275

国王

に恵まれ、

天賦の才

神聖な職務にも就いている人々が、一旦美德廉潔の道から
転落したなら、彼等の非行悪行は、前例を見ない程のものに
なるのだな。

公爵夫 この私も、お暇乞いをしなければならぬ時が参りまし

たわ。

お手をお貸し下さい、陛下、そして、貴方は、国王様ですけ
れど、

私達は、お互いに、赦しを交わし合っても宜しいのでしよう

ね。天よ、(国王様と、この私とを) 赦し給え、

そして、全世界をもね！ 行くわ、お傍へ参りますわ、アル

ヴァレス様！（死ぬ）

国王 彼等の遺骸をば、夫々に相応しい葬儀となるよう、処置
してやってくれ。

国王たる者は、一体如何程自分達が恩恵を施してやっている
者共から、つけ込まれることだろうか！ その連中は、思い
やり深く寛大に、

この上ない寵愛を国王から受けていようとも、屢々叛旗を
翻すのだな。其処から、次の格言が生れたのだ、

「国王にもまして、物事を見通す眼力の必要な者は、他に誰
もない」という格言がな。(一同、退場)

納め口上

(奥の方から声が聞えてくる) ポラード⁹³⁾親方、納め口上を
述べられるポラード親方は、何処においでですか？

納め口上役のポラード⁹³⁾氏、舞台上に押し出されて、口を開
く。

納め口上

手前は、貴方がたの許へ参りますぞ、皆様、詩人が
道すがら、私に手を貸して、これ程遙々と導いて来てくれた
のであります。ですが、手前としましては、

彼を公正に評する心算であります。この劇は悲劇⁹⁴⁾であり、

今迄で始めて、彼が、我々の為に作ってくれた作品でして、

仲々手際よく物した、会心の作だ、と彼は、自負しておりま

すものの、

従僕、登場。

手前は、気が付いていますぞー(従僕に) どうか、気を付け
ていてくれ。

何も調子外れになってはいないかな？ 彼は、何もぶち壊し
はしなかったかな？

295

290

285

5

従僕 はい、ぶち壊されてはいない、と思いませんぞ。

10

納め口上 いや、彼は、自分の納め口上を、ばらばらにぶち壊してしまつたのだ。

お前は、それを、又ぞろ、纏め上げることが出来るかな？

従僕

私

には出来ませんな。

納め口上 私にもな。どうか行つてくれ。

(従僕、退場)

ふん！ 詩人の旦那、

私の心中では、報復してやりたい、という気持が育つているのです。

(観客に) これから、皆様に手を貸して頂きながら、そんなことはしていない、という風に見せかけられるかも知れませんな。

15

お願いですから、どうか、そうなさつて下さい、何しろ、私には分つておりますが、彼は、己が言い分(申し立て)の結果(争点)に、耳を傾けているのですからな。

ですが、彼の作が上出来なのを褒めそやすあまりに、拍手し過ぎて、皆様の手を腫れ上がらせないで下さい。

貴方がたが、密かに泛べられる微笑み、貴方がたの頷き、乃

至は、「ふーん」という嘆声も、仲間達に、

その作品(の出来)がえらく気に入つた、と伝える為なのですが、それ等もね(さし控えられるが宜しい)。

20

して、拍手喝采もせずに、皆様が、劇場から立去られたなら、私は、彼の二日目の上演の成功を祈念して、薄いビールで乾盃し、

彼の元気を挫いてくれるか、さもなければ、彼を憤激させて、誓言させてやるのです、

自分は、不幸せな舞台で上演させる為に、もうこれ以上脚本を書きはせぬ、とね。

ですが、それは、余りにも酷いことでもあります、それで、我々の稼ぎは、ふいになつてしまうのですからな。誓約によつて、それが分りますし、

25

もしも、皆様が、彼の劇を気に入られたなら、彼が、そのことを諒承していたも同然なのですからな。

注

- (1) 一六二二年枢機卿となり、二四年フランス国王ルイ一三世に宰相に任じられた「リシュリユー」は、激し易く、疑い深い王をよく導き、大貴族を抑え、ユグノー（カルヴァン派のプロテスタント）の政治的力を砕いた。又、重商主義政策をとり、国力の回復に努め、集権的な絶対王政の確立を図った。対外的には、ハプスブルグ家を抑え、フランスの優位を築くことに主目標をおき、三一年以来、三〇年戦争にも介入した。当時、英国の政治家達は、八面六臂の辣腕を揮っている、この怪物政治家への対策を練り講ずるのに、大童になっている、ということ。
- (2) 枢機卿の深紅色（紫色）の衣裳は、高位高官と結びついている。
- (3) 'Mendoza'（「メンドーザ」、スペイン語読みでは「メンドサ）」は、ありふれたスペイン語の人名。
- (4) ジェイムズ一世とチャールズ一世とは、屢々臣下の婚姻に干渉した。
- (5) これも、枢機卿の衣裳と地位への言及。
- (6) アラゴンは、ナヴァールの東方に位置しているが、この両国は、一三六七年当時交戦状態にあった。
- (7) 「叛逆」への始めての言及だが、多分、枢機卿による、何か「邪悪な企て」という意味も裏に含んでいるのだろう。
- (8) コラムボは、エリザ朝演劇でありふれた、多くの粗野粗暴な武人の仲間である。シェイクスピア作「ヘンリー四世」一の「ホットスパー」参照。
- (9) 公爵夫人は、戦の知らせに反応しているだけかも知れぬが、「自分の心中では、既に戦が起っているのだ」と言いたいのでもあろう。
- (10) 原語の 'die'（昇天する）には、性的な洒落が含まれているのかも知れぬ。
- (11) ヘルナンドーは、武人としてのコラムボについて云々しているのだ。
- (12) 原語の 'phlegmatic' は、胆汁、粘液、血液、黒胆汁という（夫々、火・水・風・土に対応している）人体の四体液の多寡によってその人の性質、健康が定められるという中世生理学の考え方に基づいたもので、'sopathic' と同じ、「無気力・無感動・冷淡」の意。
- (13) 「額」とは、妻に問男された男の額に生える、と当時信じられていた角への言及。
- (14) 注(12) 参照。「粘液」は、水と結びついていて、冷たく湿っており、「胆汁」は、火と結びついていて、熱く乾いていた。コラムボとその愛人とは、正反対の性質だったということ。
- (15) 上流階級において、親が幼い男女を婚約させ、形ばかりのお床入りを行い、それから、その夫（若者）が大旅行に出るという習慣だったが、公爵夫人の結婚は、これを思わせる不幸なものだった。一六二六年、モンゴメリー伯爵の七才になる子息チャールズは、バッキンガム公爵の四才になる娘と婚約し、一六三五年に結婚したが、それから一年も経たぬうち、大旅行中に死亡した為、その父は、花嫁の持参金を返済しなければならなかった。
- (16) 火の中に棲むという、蜥蜴とがげに似た神話上の動物。
- (17) 原語の 'monument' は、普通、「記念建造物」を指しているが、ここでは、「墓（穴）」の意。
- (18) アントニオは、公爵夫人が後に陥る狂気を予想している。
- (19) 「王権神授説」への言及。
- (20) 原語の 'chronicle' は、「年代記」の意。
- (21) 日光に当てて、焦点を合わせれば、その熱で火が点くレンズ。
- (22) 枢機卿の優しさへの皮肉な言及。

- (23) 独身の僧侶として、枢機卿は、靈的精神的なレヴェルの欲びを見出すべきなのに、卑猥な欲びを求めているとして、公爵夫人は、五幕三場での彼の行動を予示している。
- (24) 一六四一年、民衆の宗教信仰への不満が募っていったことへの言及。
- (25) 原語の 'perspective' は、'telescope' (望遠鏡) のこと。
- (26) 原語の 'true glass' は、物の姿を歪まずに見せる鏡。
- (27) 清教徒達の短い髪型への、軽蔑的な言及。
- (28) 原語の 'triumph' は、'public celebrations' (公開の式典、祝賀会) の意。
- (29) M・P・テイリー編「十六・七世紀英国俚諺辞典」M1119 (二月は、吼えている犬など気にもかけない。) 参照。
- (30) 枢機卿は、ヘルナンドーが、今や無害になった、と多寡を括って、揶揄しているのだ。
- (31) 原語の 'have a precious mind' は、'have a strong desire' という珍らしい意味で用いられている。
- (32) 原語の 'myndion(s)' は、アキレウスに従ってトロイアに遠征した、「ミュルミドン達」のことで、「忠実な家来達」を意味している。
- (33) 5・3・54 参照。
- (34) 衣服をしつかり締めておく為の真田織りのレース。
- (35) 慣習的に好色淫奔だとされていた。
- (36) 女役を演ずる少年俳優達。
- (37) 人間は、人間以上でも、人間以外でもないということ。M・P・テイリー編「十六・七世紀英国俚諺辞典」M243 参照。
- (38) ミドルトン&デカー作「女番長」4・2・31 参照。
- (39) 二重に悪辣ということ。シェイクスピア作「ハムレット」四・七・一二六 参照。
- (40) シェイクスピア作「ハムレット」三・四・一一〇―一一一 参照。
- (41) シェイクスピア作「ハムレット」の主人公ハムレットの父の亡霊は、子息が殺された自分の復讐を果してくれる迄は、休息出来ないこらいと零している。
- (42) 中世的な「死の舞踏」に関する考え方で、あらゆる身分地位の生者は、死者と共に、墓穴へ向って踊っている、という図で示されている。
- (43) ジョン・フォード作「哀れ、彼女は娼婦」二・二・一四四―四五 参照。
- (44) クリストファ・マロー作「タムバレイン大王」一・一・二一七三、ジョン・フォード作「哀れ、彼女は娼婦」五・五・一一―一二 参照。
- (45) 「王権神授説」への言及。
- (46) 注(25) 参照。
- (47) 原語の 'optic' は、'magnifying glass' (拡大鏡) の意。
- (48) 原語の 'tape' は、「アルヴァレスへの」力づくでの捕獲」を意味している。
- (49) 「復讐とは、一種の野放図な裁きなり」という、「随想録」での、ベーコンの定義参照。
- (50) 「つむじ風(が人を引っ攫ってゆく)」というのは、シャーリーが好んで用いたイメージ。
- (51) ロソーラの佯狂は、復讐劇において、当然予想される、構成要素となっている。
- (52) 「来世」に関する、キリスト教的、及び、古典的考え方の混淆。
- (53) 「怒りに任せて、侮辱的言辞をあなたに浴びせたことを、半ば悔んでいる」という、コラムボの台詞への皮肉(アイロニック)な反応。
- (54) 決闘では、当事者と共に、介添人も、時として、闘うのが習わしになっていた。
- (55) ヘルナンドーを軍隊から解雇してしまったコラムボは、今や

- 「彼の魂をその肉体から開放してやろう」と言っているのだ。
- (56) シェイクスピア作「冬の夜話」(一・二・四一七—一八) 参照。
- (57) 「弩弓」のような武器を指している。
- (58) 原語の 'orphan' は、「幸せを奪われた人」という、珍らしい意味で用いられている。
- (59) 原語の 'bravo' は、'bravado' の意味で使われているのだろうが、コラムボは、ヘルナンドーを無視するふりを続けているのかも知れぬ。
- (60) 話し始めようとする時、先ず咳払いするというイメージ。又、ヘルナンドーは、コラムボに、比喩的に唾を吐きかけているのである。
- (61) 「躓く」のが、凶兆であることについては、M・P・ティリー「十六・七世紀英国俚諺辞典」T259 参照。(この辞典では、'stumble on the threshold' (敷居に躓く)、「部屋の入口で躓く」となっている。
- (62) 有利な条件 (アドヴァンティジ) を自ら捨ててしまうというコラムボの潔さについては、四・一・三八—九 参照。
- (63) 五・二・一〇—一三 参照。
- (64) 悪人が本性を暴露する、このような独白については、シェイクスピア作の「リチャード三世」の主人公、イアゴー (「オセロー」)、エドマンド (「リア王」)、ベン・ジョンソン作「ヴォルボーネ」の主人公等に見られる。
- (65) 「死を手繰り寄せる」とは、シャリーのお気に入りイメージ。シェイクスピア作「ヘンリー六世」2・3・二・一七三—では、ハムフリー公爵が「生を手繰り寄せて」いる。
- (66) 原語の 'pigeon' (鳩) は、温和穏健なものの象徴。
- (67) (68) 原語の 'turtle' は、'turtle-dove' (キジバト) を指し、(67) 「夫婦の誠実貞節」と、(68) 「忍耐」の象徴。M・P・ティリー編「十六・七世紀英国俚諺辞典」T624, T573 参照。
- (69) 枢機卿は、セリンダに何か報酬を用意しているか、自分の復讐で、彼女が手を貸してくれるよう、アントネッリに取計らって欲しい、と思っているのだ。
- (70) 枢機卿は、何か魔力をもった一服を飲ませようと目論んでいるか、公爵夫人を欺いて、致命的な立場に追い込んでやろうと想像しているのだ。
- (71) 枢機卿は、公爵夫人の佯狂に、全く欺かれていた訳ではない。
- (72) 貴女は、女として、より巧くやれよう、何故なら、性行為が行えるが、それは、復讐と違って、結果が見込めるし、それを我がもの (我が子) として手許に取っておけるからだ、の意。
- (73) シェイクスピア作「ロメオとジュリエット」一・三・八二—九三 参照。
- (74) 原語は、'exchequer' (資力↓財布) だが、その中味が潤沢なものだとされているのだ。五・一・六七—八 参照。
- (75) アントニオは、彼女の律儀貞淑さを、黄金の原石宛らに、「試金」することによって、確立してやろう、と言っているのだ。
- (76) 原語は、'touchstone' (試金石)。
- (77) 原語は、'test' (分析器)。
- (78) 原語は、'trial' (△ to try) 「貴金属を、鋳滓 (渣滓) と仕分けする」の意。
- (79) 原語の 'verb material' には、「やらねばならぬ重要なこと」の意の他に、「肉体を動かす必要があること」('that involves physical activity') という裏の意味もある。
- (80) 原語の 'index/Expurgatorius' は、猥褻な誤りの箇所が削除訂正されたなら、ローマカトリック教徒が読んでもよい、とされていた項目のリスト。「Index」には、「男根」という猥褻な意味もあり、アントニオの「一物」が、彼女のこれ迄の罪を抹消させられよう、と言っているのだ。
- (81) セリンダの場合には、抹消されるべき項目は、彼女の性的な

- 不品行なのだ。
- (82) 原語は、'Cum privilegio ad imprimendum' ('with the right to print') の 'print' には、「妊娠させる」の意もある。シェイクスピア作「十四行詩集」一一一―一四参照。
- (83) 原語の 'progress' は、(国王などの) 公的旅行、巡幸」を指しているが、こんな旅行では、奔放不品行な行動に趨るのが普通だった。
- (84) 悪魔は、時として、「魚のような獲物を捉えている漁夫」として描かれた。
- (85) 原語の 'sea-gulls' (かもめ) には、「愚かな漁夫」の意がある。
- (86) ボーモント&フレッチャー作「無一文の知者」2・1 (こんな天候で、三人が同じ一つベッドに入るのは、多過ぎよう) 参照。
- (87) ハムレットの佯狂のやり方を、ポローニアスが見破った条り参照。シェイクスピア作「ハムレット」二・二・二〇四
- (88) 「天人花」(myrtle) は、特にウェヌス女神と結びついている。
- (89) ウェヌスの子息の、恋の神クビドー (キューピッド) は、伝統的に盲目だとされていた。
- (90) 裂けて二股になった足先は、悪魔の足の特徴で、枢機卿を悪魔と同一視しているのだ。
- (91) 発熱時の療法として行われた、皮下の静脈を針などで刺して、悪い血を流し出す刺絡(瀉血、放血)のイメージ。
- (92) この「納め口上」は、悲劇に、喜劇的な内容の納め口上が付いた早期の例。
- (93) 一六二三年には既に喜劇的役割を演じていた、俳優トマス・ポラードを指している。
- (94) グローヴ座、ブラックフライアーズ座を本拠とし、シェイクスピアが属していたことで有名な「国王一座」(King's Men) が始めて手がけることになる悲劇ということ。

補注 (一) (四・一・四三―四)

原語の 'seize' は、不動産の所有が保証されていた期間―三世代の間―を指している。貸借期間の因になっていた三名の寿命が尽きたなら、正直者は大手を振って歩けるようになるう、つまり、コラムボと枢機卿とが、亡くなったアルヴァレスの後を追ったなら、悪い時代は終りを告げよう、の意。

補注 (二) (五・三・三七)

原語は、(poesy) (銘) だが、只管亡き恋人ダルヴァレス伯爵との、天国での魂の合一を願う公爵夫人は、己が髪を編んで作った(服喪の)腕環に付ける「銘」は、'Rosaura' という自分の名前にしようと思いついたが、これは、'rosarius' (薔薇の) という言葉の縁語であり、当然、これから、'posy' (花束、指環などの内側に刻んだ銘) を連想し、更に、洒落て一ひねりして、これの「語中音消失」(syncopation) されぬ元の形 'poesy' (詩想、詩才、詩的靈感、銘) に思い到ったのも当然のことだろう。これを、図式化すれば、Rosaura → rosarius → posy → poesy となる。

補注 (三) (五・三・五五)

原語の 'cock' には、雄鶏が早朝啼いて、人を目覚めさせる如く、生温い信仰ぶりの、眠り呆けたような一般大衆に喝を入れて、真の信仰に目覚めさせる、(宗教信仰の) 指導者の意もあり、「赤い」は、枢機卿が着用する衣裳の色への言及。